

ヒアリング結果概要

ヒアリング対象：関係機関(利尻町、利尻富士町)及び地域関係者(宿泊業者、地元登山ガイド、島内登山愛好家 等) 7人
利尻山でガイドを行っている島外在住登山ガイド 3人・(参考)ツアー会社 1社、旅行業ツアー登山協議会事務局

※ 赤文字：島外在住登山ガイド、ツアー会社等からの意見

利尻山の位置づけ・利尻山の認識・魅力など

利尻山は利尻島のシンボル

- まちづくり・地域づくりを考える上での中心となる山
- 利尻島のメインの景観、さまざまな恵みをもたらす宝の山
- 荒廃を防ぎ、できる限り登山利用を続けたい
- 海からそびえる島と一体となった山(洋上の独立峰)の美しさが魅力
- 野鳥と高山植物の豊富さ
- 百名山の1つである 等

地域の人がどれだけ利尻山に関心を持ち、現状を知っているだろうか？

利尻山を取り巻く地域の現状

人口減少・少子高齢化

- 思うように山、登山道の保全に力を注ぎきれない

利尻山及び登山道の変化・現状

かつては歩きやすい山だった

- かつては登山靴がいらないくらい歩きやすい登山道
- 15年ほど前を境に急激に登山者数が増加し、登山道の浸食が急速に進行(この数年その傾向が著しい)
- 特に山頂周辺の状況は劇的に変化、現在の山頂もいつまで「山頂」として利用できるか…
- 人が滞留する場所での植生の消失に対する懸念
- 崩れやすい地質・厳しい自然条件に、短期間に集中する登山者により、自然環境・登山道がダメージを受けている
- 花の開花期の変化、個体数の減少

登山者の実態・地域経済への影響

登山者数約1万人 高齢化、レベルの低下

- 1万人が上限
- 立地や利用時期を考えると多い？
- 登山者の高齢化、レベル(体力・マナー)の低下(10年前と比較すると登山時間が2時間程度余分にかかる)

思いつき登山者が課題の1つ

- 島に来てから思い立って登ろうとする人がトラブルを起こしやすく、登山マナーや装備に問題あり
- 登山を目的に島に来る人の多くは、事前に情報を収集し、足慣らしをし、装備も問題なし

登山者の行動パターンはさまざま

- 礼文島や他の山とセットでの利尻山登山
- 利尻島での宿泊は2泊が主流(以下ツアー登山の一例)
(1日目)各地→稚内→利尻島 (2日目)寫泊コース往復 (3日目)→香深→礼文島ハイキング (4日目)香深→稚内→各地
- ツアー登山参加者は、単独登山への不安、旅行手配を煩雑に感じている人が多いのではないか？

休憩時に高山植生にダメージを与える行動がみられる

- 写真撮影のために立ち入る
- 高山植生の上に足を投げ出す・座る 等

登山者は入込みが大きく増減せず、宿泊もする安定した観光客

- 利尻島の宿泊客数に占める登山者の割合が20%程度で、固定的に見込める宿泊客と考えたと経済効果は高い
- 1万人の登山者(宿泊観光客)がそのままなくなるのは経済的影響が大きい

これまでの取り組みの現状・課題

利尻山登山道等維持管理連絡協議会の発足がきっかけ

- 協議会発足後、両町が協力して登山道の維持補修
- 地域が利尻山を考えるきっかけになっている

登山道維持補修作業を地域だけで継続していくのは困難な状況

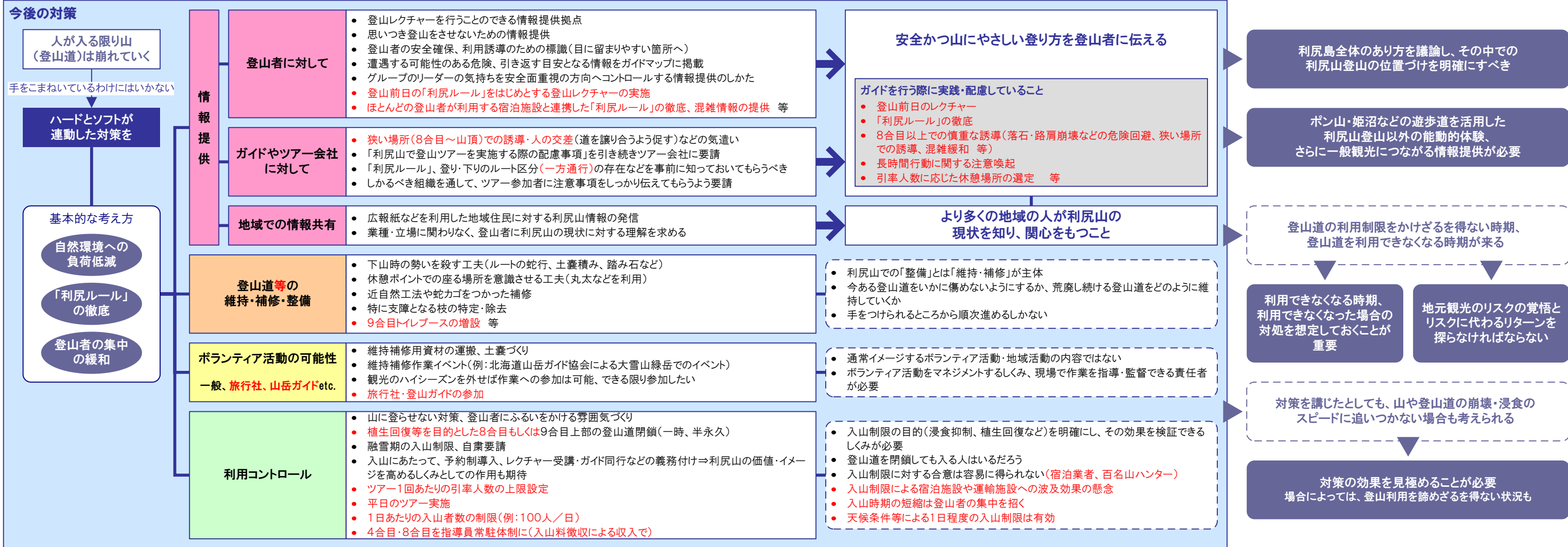
- 登山だけでも大変な上、資材などを担ぎ上げ、さらに作業をしなければならない
- 観光のハイシーズンに重なるため、観光業に携わっている人の参加は難しい

携帯トイレ・利尻ルールなどの取り組みは一定の成果

- 山の環境が改善されたこと、登山者にも大切にされていることを実感
- 今後も取り組みを継続し、山にやさしい登山を意識してもらおう
- 「利尻ルール」は明瞭でわかりやすく、ガイドとしてお客様に説明しやすく、実行してもらいやすい
- 携帯トイレの取り組みは浸透してきている
- ツアー登山者への徹底はガイドにより行われているが、個人・グループで訪れる一般登山者にはあまり浸透していない

登山に関する情報量・提供方法にばらつき

- これまで情報発信があまり行われてこなかった原因には、島民に登山に関するスペシャリストが少ないこともあるのでは
- アクティブレジャーの赴任によって情報量・情報の新しさとも改善、継続してほしい
- 宿泊施設によって情報量・提供方法にばらつきがある(特にストックキャップについては、案内が行われていないところもある)



島外登山ガイド及びツアー会社に対するヒアリング結果

ヒアリング対象・内容

▼ヒアリング対象

- 利尻山でガイドを行っている島外在住登山ガイド 3名
- (参考) 利尻山でツアー登山を行っているツアー会社 1社
- (参考) 旅行業ツアー登山協議会事務局

▼ヒアリング内容

- 利尻山の魅力
- 利尻山の自然環境・登山道の状況について
- 「利尻ルール」(携帯トイレを使う、ストックにキャップをつける、植物の上に座らない・踏み込まない)について(取り組みに対する評価、ガイド中の配慮のしかた 等)
- 利尻山登山でガイドを行う際に配慮していること(参加者の安全確保、自然環境、登山道の混雑緩和 等)
- ツアー登山参加者や他の登山者について(傾向、特徴、気になる行動、ニーズ 等)
- 利尻山登山に関する地元の情報提供について
- 利尻山登山はどうあるべきか、そのために何をすべきか
- 利尻山登山道保護や登山利用の適正化のためにご自身ができると思われること
- 登山利用の制限(入山時期やルートの開鎖など)を行った場合に想定される影響
- その他(上記以外の意見等)

ヒアリング結果

※ [ツアー会社]、[旅行業ツアー登山協議会事務局] の表記がないものは、島外在住登山ガイドからの意見

利尻山の魅力

- 海からすくっとそびえる、島と一体になった山の美しさ。山というよりは、島の魅力と一体化している。
- 個人で訪れる人にとっては、野鳥と高山植物の豊富さ。
- 団体やツアー客は百名山狙い。
- 洋上にある独立峰であること。
- 山容が秀麗であること。
- 宿泊施設で食材(海産物)が楽しめること。

利尻山の自然環境・登山道の状況について

- もろい土質、厳しい自然環境に、短期間に集中する登山者が拍車をかけて自然環境、登山道を破壊している。
- 花の開花期もずれてきている、また花の個体数も少なくなっている。
- 9.5 合目から上の一方通行が可能となれば、崩壊も少しは改善される。
- 損壊が著しい。10 年前はこのような状態ではなかった。特にここ 2～3 年で著しく損壊が進んでいる。

「利尻ルール」について（取り組みに対する評価、ガイド中の配慮のしかた 等）

- これだけ明瞭でわかりやすいルールは全国的にも例がなく、利尻として誇れるものと思う。ガイドとしても、お客様に説明しやすく、実行してもらいやすい。
- 携帯トイレはやっと浸透してきたように思う。ツアーで登山をしている方は比較的ルールを守っている。個人・グループで訪れる一般登山者の意識が薄いのではないか。
- 携帯トイレの案内は各宿泊施設で行われているが、ストックキャップについて説明が行われていない所が多いように思われる。
- 9 合目のトイレブースの増設を希望したい。
- ツアーのお客様には徹底しているが、個人・グループ単位での登山者のマナーの悪さにはしばしば呆然とさせられる。
- 周知の要請があれば応じる。[ツアー会社]

利尻山登山でガイドを行う際に配慮していること（参加者の安全確保、自然環境、登山道の混雑緩和 等）

- 利尻ルールの徹底。
- 9 合目から上の落石や路肩の崩落の危険回避。
- お客様の人数により、休憩場所を考える。
- トイレの時間。
- 9.5 合目から上における登る人下る人の交差。
- 長時間行動による疲労等。
- 登山道以外の踏み込み禁止。
- 崩壊地での落石。
- 狭い場所での誘導。
- 登山前日のレクチャー（この時に利尻ルールを初めて知る方が大半を占める）。
- 8 合目以上での慎重な誘導。
- 頂稜部の崩壊に関する安全配慮。[ツアー会社]
- 長時間行動に関する注意喚起。[ツアー会社]

ツアー登山参加者や他の登山者について（傾向、特徴、気になる行動、ニーズ 等）

- ツアー登山参加者の行動は、ガイドの指導により、良い方向に向かっている。むしろ、一般登山者に利尻ルールなどが徹底されていない。
- 登山者のレベル（体力、マナー等）の低下。約 10 年前と比較すると、2 時間近く登山時間が余分にかかる。
- 登山者の年齢層が高齢化している。
- ツアー以外の登山者の装備が不十分（いい加減）なケースが多い。
- スニーカーに手ぶらで、休憩のたびに水をねだる非常識な観光客まがいのものさえいる。
- ツアー登山参加者は、単独登山に不安感をもち、旅行手配を繁雑に感じている人が多いのではないか。[ツアー会社]
- ツアー登山参加者は、事前にガイドブック等で登山情報等は入手していると思われる。[ツアー会社]

利尻山登山に関する地元の情報提供について

- これまでは、あまり情報発信が行われていなかった。島民に登山に関するスペシャリストが少ないことも原因と思う。
- アクティブレンジャーが赴任してから情報発信も多くなり、内容もタイムリーになった。今後ぜひお願いしたい。
- 宿泊施設での情報提供の悪さを感じることもある。携帯トイレ、ストックキャップの説明をしていない業者もある。
- 可能であれば、宿泊施設ごとに入山者数をまとめ、おおよその混雑状況をインターネット配信し検索できるようにすれば、混雑を緩和できるのでは。

利尻山登山はどうあるべきか、そのために何をすべきか

- できるだけ自然環境に負担を与えない方向で登山する。
- 利尻ルールを徹底する。
- 登山者の集中の緩和を図る。
- 宿泊業者との連携。登山者は殆ど利尻で泊まることになるので、どこに宿泊しても同じ案内ができることが大事である。予約の段階で利尻ルールの徹底を図る、登山協議会の会議への参加など。
- 全国に先がけて入山者数の制限（100 人以内／日）を行う。
- 入山料を徴収し、その収入で 4 合目、8 合目での指導員常駐体制をとる。
- 時限的（2～3 年間）に、植生回復目的等で、8 合目以上の入山禁止措置を講じるのもひとつの方策と考えられる。

利尻山登山道保護や登山利用の適正化のためにご自身ができると思われること

- 利尻ルール徹底のため、登山前日にお客様にその旨、説明する時間を作る。
- できるだけ登山者が集中しないように平日に組む。
- 登山道整備に協力する。
- 登山ガイド、旅行社による登山道整備。
- 1 ツアーのお客様の人数を少なくする。
- ツアー1 回あたりの引率客数を減らしている。10 年前は 30 人／回前後だったものを、現在は 15 人以内に自制している。

登山利用の制限（入山時期やルート閉鎖など）を行った場合に想定される影響

- 登山利用の制限は、地元の宿泊施設や運輸機関への波及効果が心配される。
- 百名山ハンターが大半をしめているので、ルートの閉鎖は、受け入れられないよう思う。
- 登山道を閉鎖すると宿泊業者の反発が懸念される。
- 大雨で登山道に水が走る時の登山道の閉鎖は、説明次第では受け入れられるかもしれない。
- 悪天候等による 1 日単位の入山規制は有効。
- 入山時期を縮小するのは、かえって登山者の集中を招く。
- 必ずや無法者がトラブルを起こすのではないかな？

その他

- 意見聴取の集計結果をぜひ教えていただきたい。また、どのように意見聴取が、施策に反映されたかも連絡していただきたい。
- 旅行社はパンフレットを作成し顧客に送付するのが 2 月位なので、要望等は 11 月位に連絡することを希望。
- 旅行業ツアー登山協議会会員すべてを対象としたアンケートなどで意見聴取を行い、その結果も分析し判断材料としてはどうか。[ツアー会社]
- ツアー登山・百名山ツアー全般に、参加者は 60 代前半から 70 代の登山経験者が多く、全くの初心者は非常に少ない傾向がみられる。「百名山」だからといって、一概に人気があるとは言えないようである。[ツアー会社]
- 百名山を対象としたツアー登山の人気が勢いを盛り返しつつある理由として、団塊世代の定年後の新たな目標として登る人、あるいは自分探しを動機に登る人が増えたことによるのでは、と推測される。[旅行業ツアー登山協議会事務局]